

Step 6-1

収納を知る

～片づく仕組みって？～



「片づく仕組み」って？

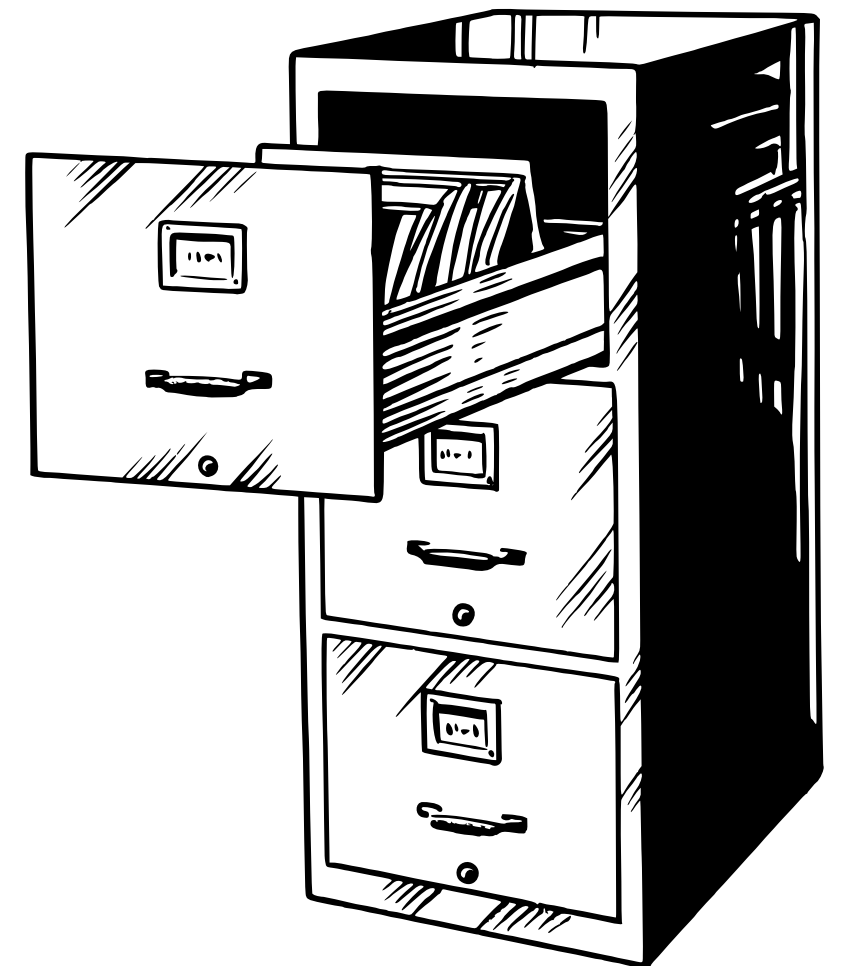
まず、**収納方法に正解はありません。**

なぜなら、家によって家の広さ・モノの多さ・ライフスタイル・好みは様々だから。

「こんな収納が正解」は言えませんが
片づけている家には、**ある共通点**があります。

それは「**片づく仕組み**」がある、ということ。

すべてを取り入れる必要はもちろんありませんが
取り入れたい！と思うことはぜひ取り入れてみて。



仕組み① 定位置を決める

片づけとは、「元の場所＝定位置に戻す」ということ。

すなわち、1つ1つのモノに住所を決めて、使い終わったらそこに戻す。

そうすると、床にモノが置かれたり、どこにしまったかわからなくなることもなく散らかったとしても、すぐに戻すことができます。



仕組み② 動作・動線を考えた収納

収納の基本は「使う場所の近く」

動線は短くが基本。

使うときは必要だから、多少遠くても取りに行きますが
戻すときはもう必要性がないので、面倒になってしまいます。
だからこそ、**動線は短く、収納方法はラクな方法**で。

そして、小片づけでも学んだ

高さ：中段→下段→上段

奥行き：手前→奥

この順番が使いやすい順番。

ぜひこれも意識しておきましょう。



ラクというのは…
出すまでの動作が少ないこと。
棚の上の時計のおもちゃは1つの動作で取れる。
ミッキーのボックスの中のおもちゃは
ボックスを取り出して、フタを開けて、取り出す…
3つの動作が必要。
この違いだよ！！

仕組み③ 使用頻度を考えた収納

動作・動線を考えて収納を決めていくと

「あれもこれもここにしまいたい、でもスペースがない！」
そんな事態に陥ってしまうかもしれません。

そんな場合は

モノ自体の量が多い可能性もありますが
もうひとつ、使用頻度を考えて定位置を決めるのもあり！

例えば子どもがリビングで遊んでいるけれど
リビングにすべてのおもちゃを置けない。

その場合は

よく遊ぶ1軍おもちゃ：リビングの遊ぶ場所近く

たまに遊ぶ2軍おもちゃ：子ども部屋など離れた場所



ここはリビング横の
畳スペースで
よく遊ぶ場所=1軍

仕組み④ グルーピング

グルーピングとは「一緒に使うモノを一緒に収納する」こと。

例えば、子どもが工作をするのに
はさみはここ、のりはあそこ、色鉛筆はこっち…と
必要なモノがあちらこちらにあると、準備も後片づけも面倒。
面倒だったら、結局元に戻さくなります。

だから、一緒にまとめる、ということ！
一緒にまとめると、準備も後片づけもラク。
ラクだから、定位置に戻すことができる。

どんなモノでもOK！
何と何が一緒だとラクかな？と考えてみてね。



むすめの工作セット

仕組み⑤ ラベリング

ラベリングとは、定位置が決まったら「**ここはこれをしまう場所**」と見てわかるように工夫すること。

ラベリングのメリットは

- ①どこに何があるか誰でもわかる
- ②そこに戻しやすくなる

ただ、**使う人にわかりやすいラベリング**を意識してね。

子どものものなら

ひらがな・イラストを入れる・色で分ける…

子ども自身に確認しながら作ってみて。



ひらがな+イラストでラベリング

Thank you!

ありがとうございました!

引き続き、次のスライドも見てくださいね。

わからないところはいつでもLINEしてください♪